



SMFGにおける イノベーション推進について

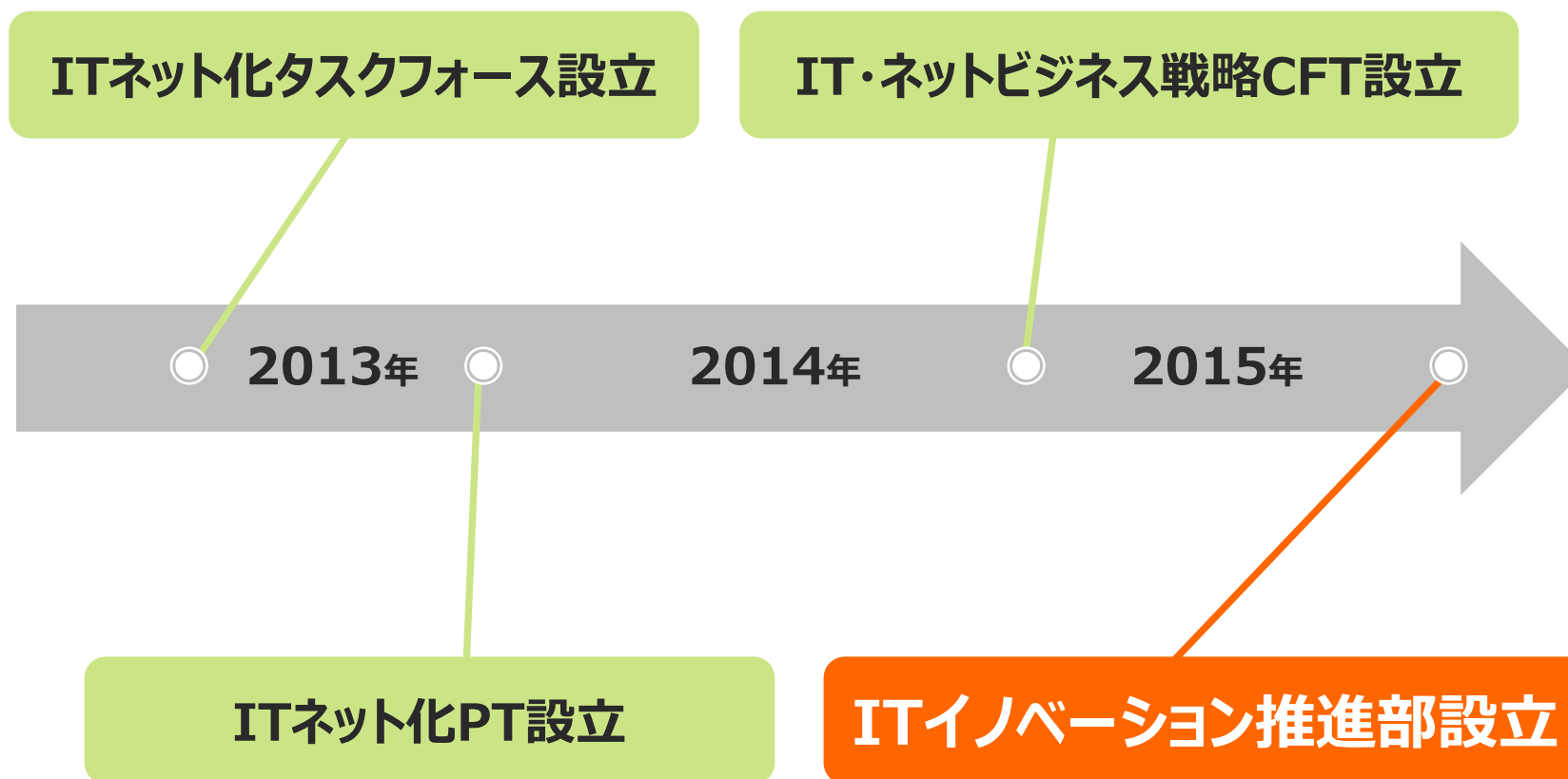
2016年6月10日

三井住友フィナンシャルグループ ITイノベーション推進部

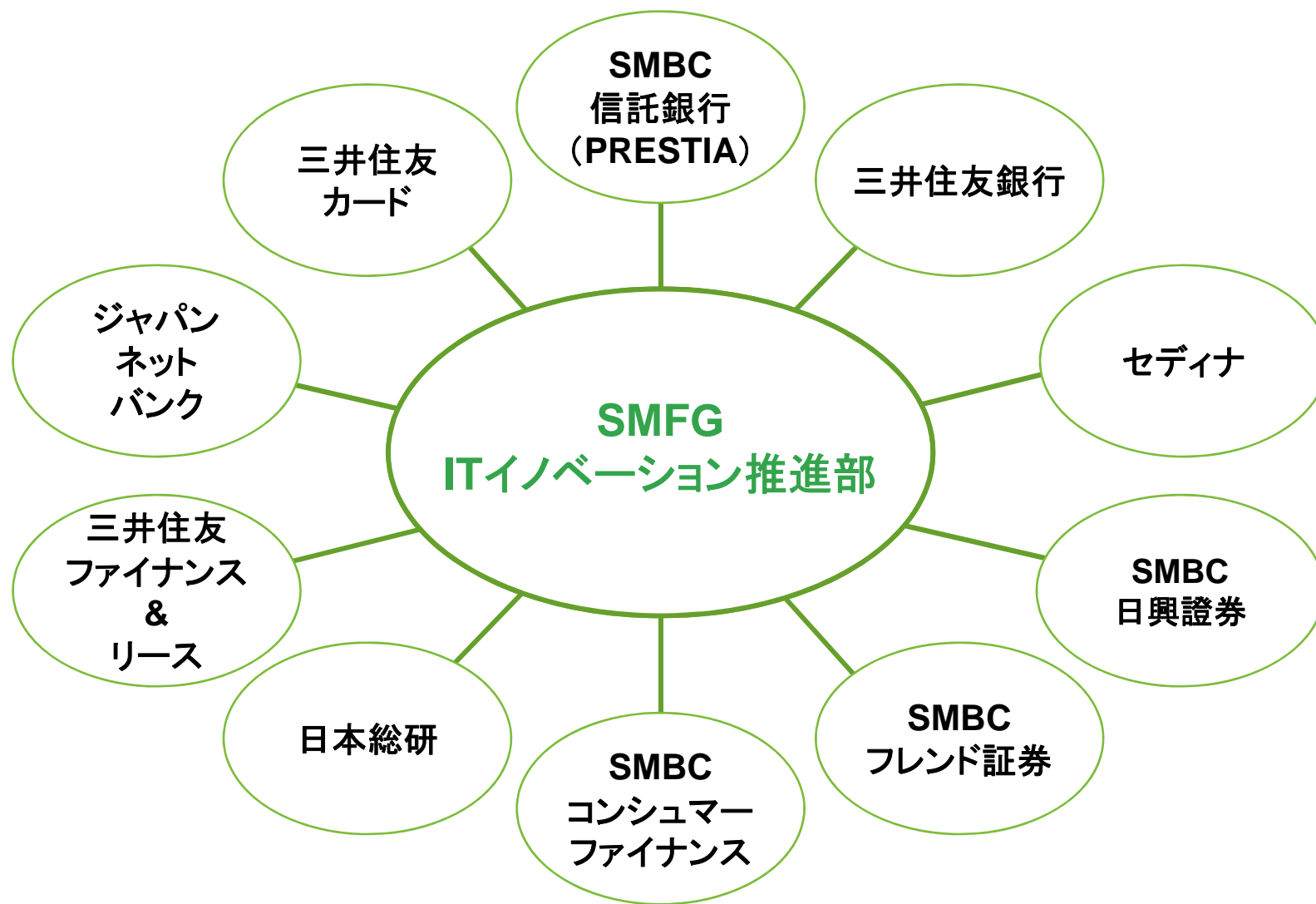
中山 知章

■ はじめに

2015年10月にFGのイノベーション創出をミッションとして担う部署を発足



SMFGのInnovation Hub



■ 本日のアジェンダ

I. 金融市場の環境認識

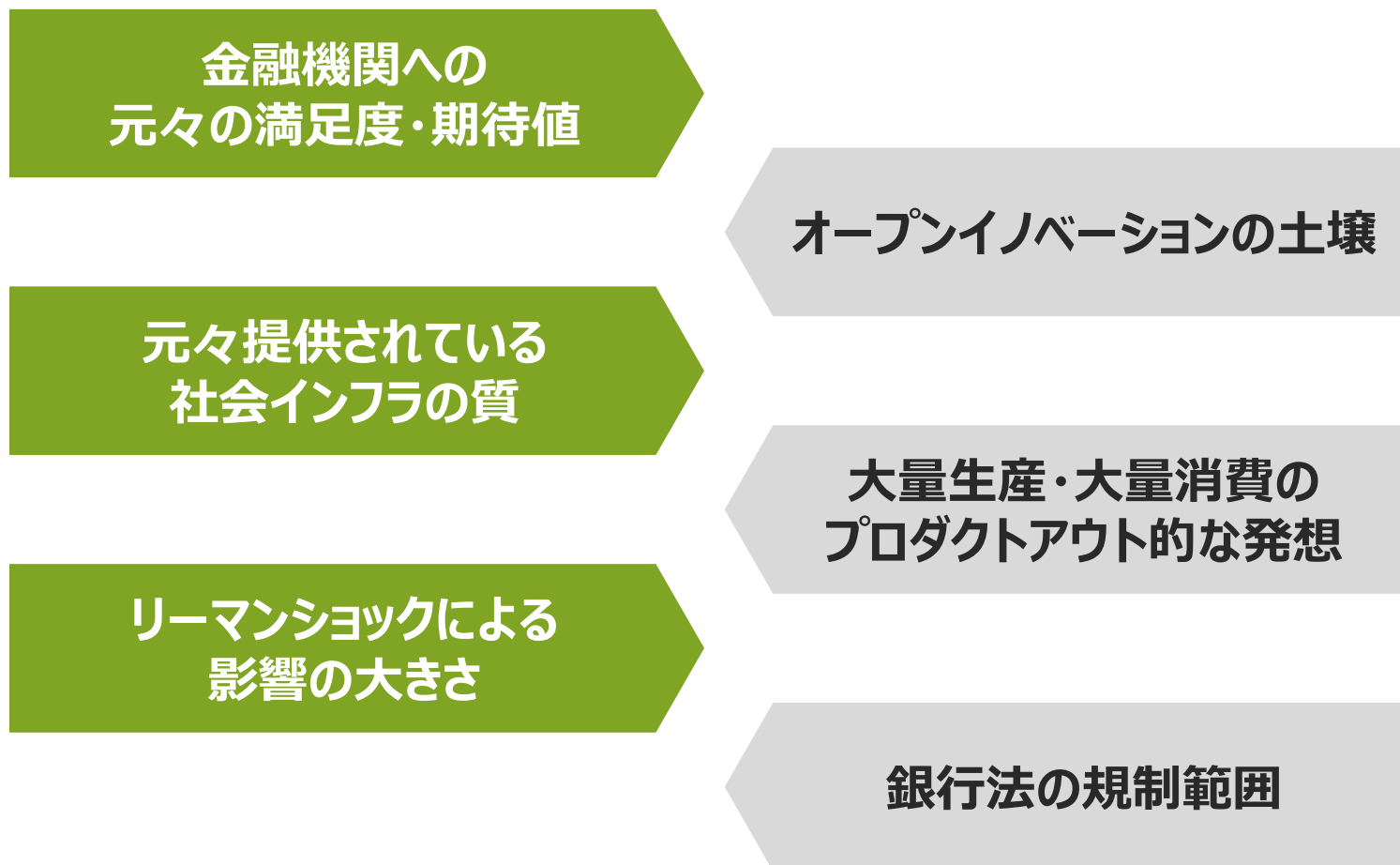
II. 我々の注力領域・取組み



I. 金融市場の環境認識

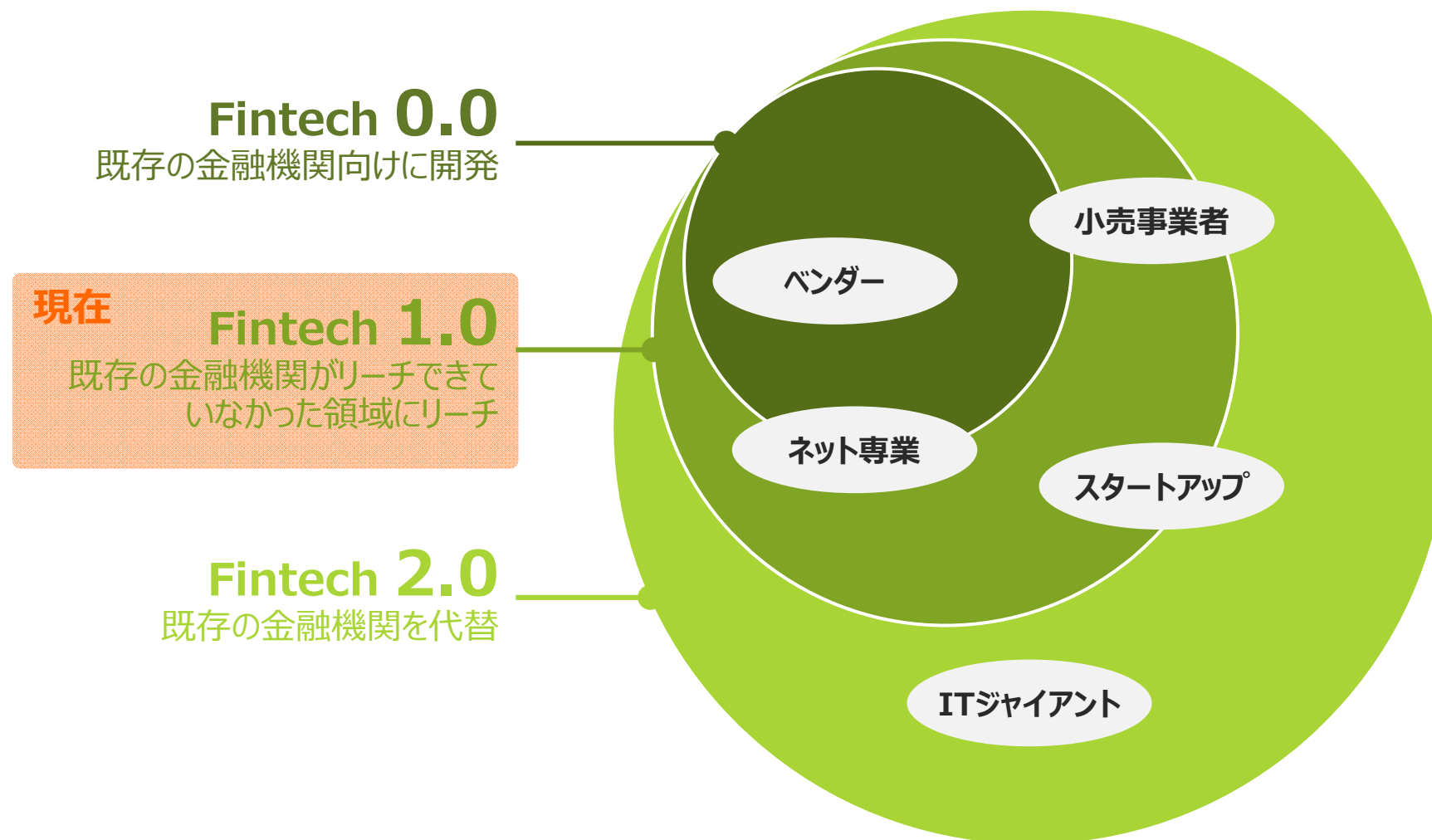
■ 我々の足元の環境認識

日本は欧米に比べて、やれることは多いとされるが、日本固有の環境を考慮すべき。



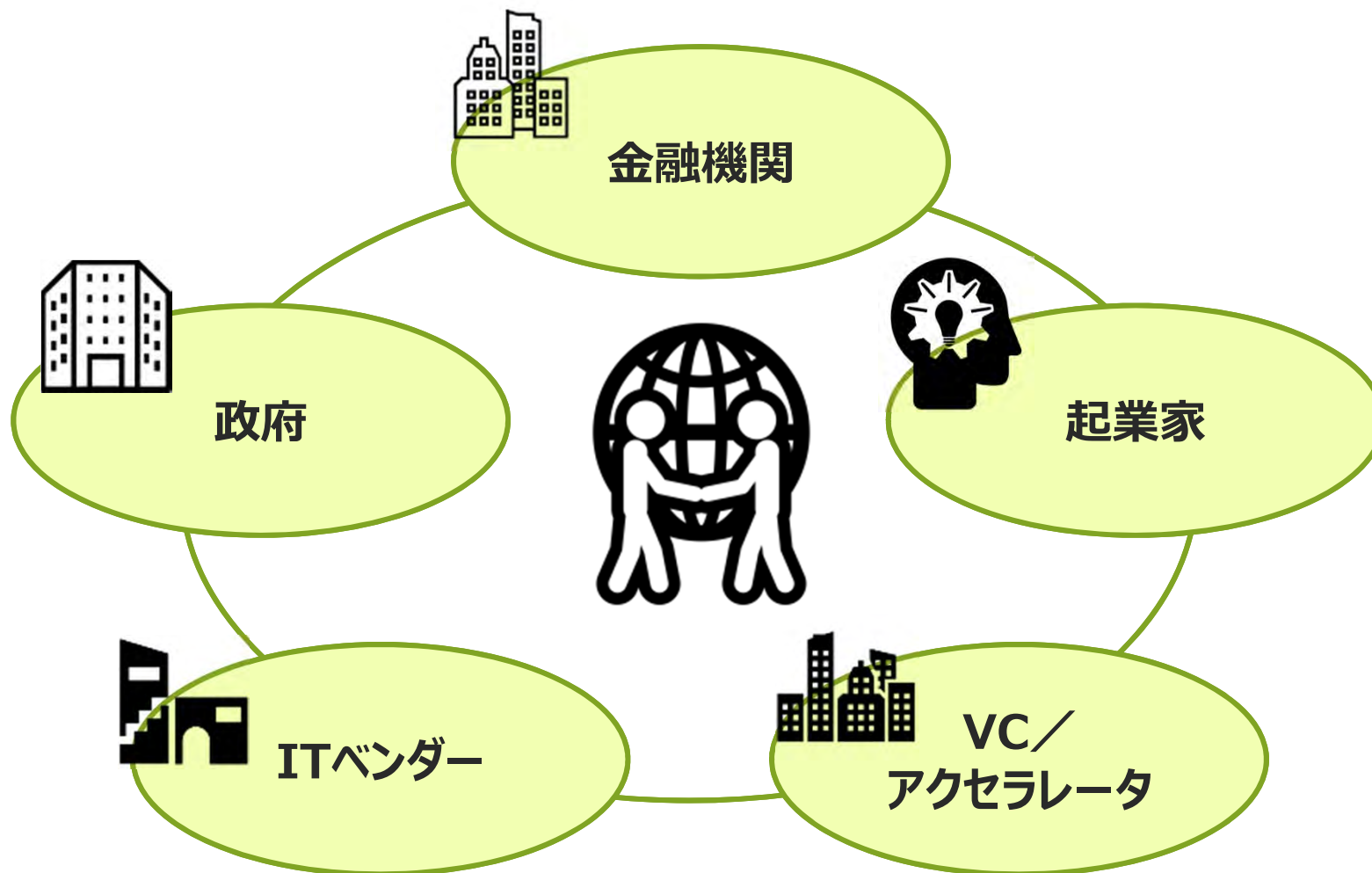
■ 日本における競合環境

日本は「Fintech1.0」のフェーズが始まったところ。



■ イノベーション創出に向けたエコシステム

スタートアップの育成に向けては金融機関も積極的に関与すべき。
また、日本特有の状況としてITベンダーとの密接な連携も重要。

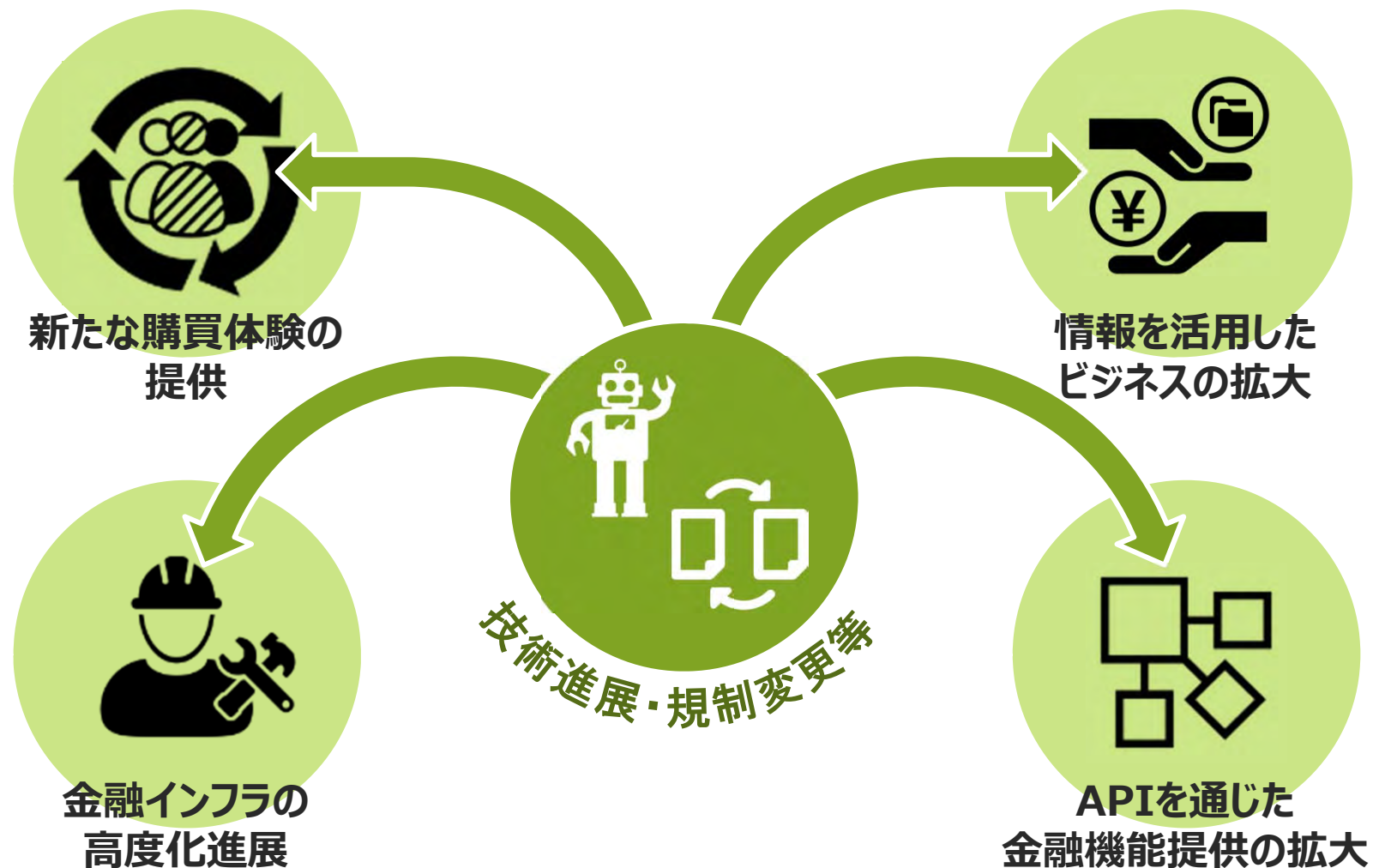




II. 我々の注力領域・取組み

■ これからのトレンド

技術進展や規制変更は金融業界に大きな影響。



■ 我々の注力領域

A 次世代購買体験

モバイルウォレット

新たな決済デバイス導入

クロスボーダー決済



C エンタープライズサービス

API提供

IoT活用



B AI・人工知能

運用の自動化・個別化

顧客対応高度化



D 次世代金融インフラ

ブロックチェーン活用

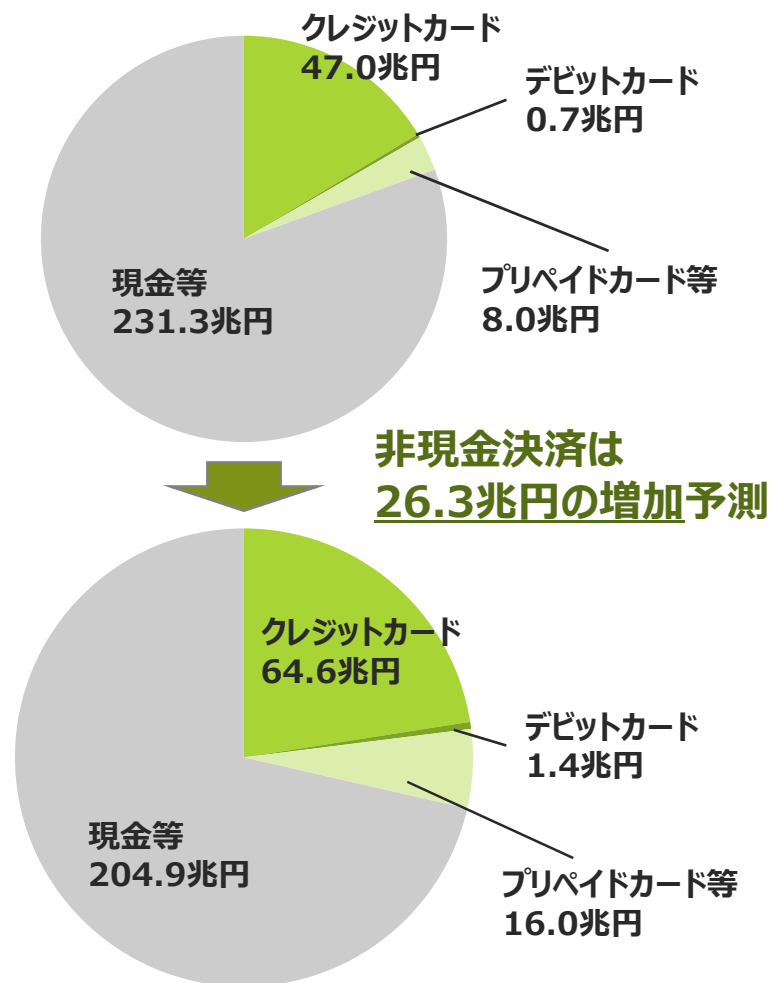
ビッグデータ基盤



■ 我々の注力領域 | 次世代購買体験

キャッシュレス化が進む世界の中で、決済に新たな価値を付加する。

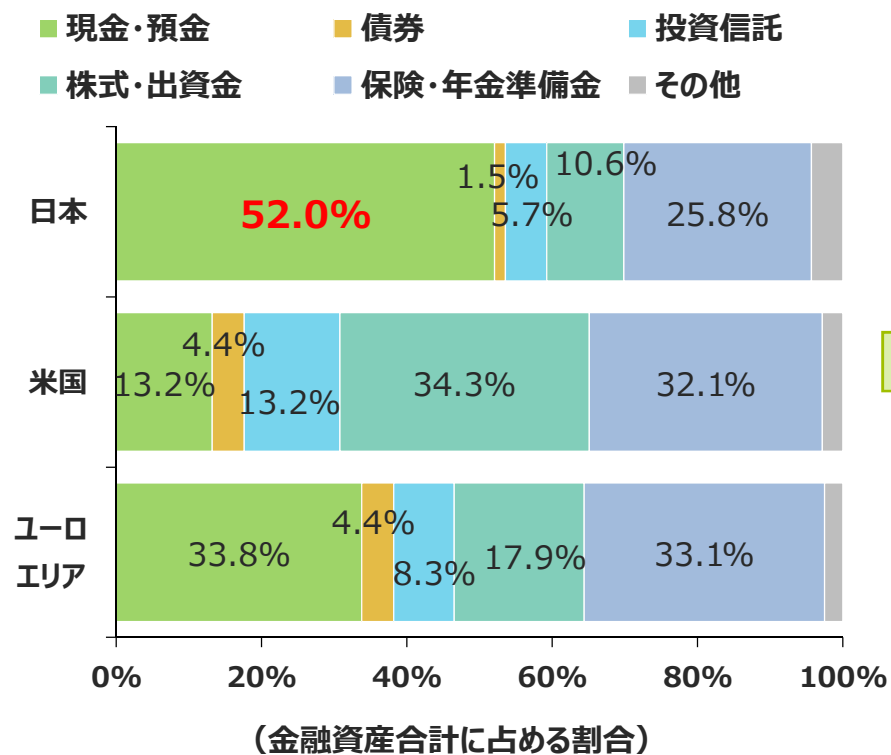
日本における非現金決済の推移



■ 我々の注力領域 | 新しい運用サービス

多種多様なニーズに応え、運用の裾野を大きく拡大していきたい。

家計の資産構成に関する日米欧比較



出典：日本銀行「資金循環の日米欧比較」

※「その他計」は、金融資産合計から、「現金・預金」、「債券」、「投資信託」、「株式・出資金」、「保険・年金準備金」を控除した残差

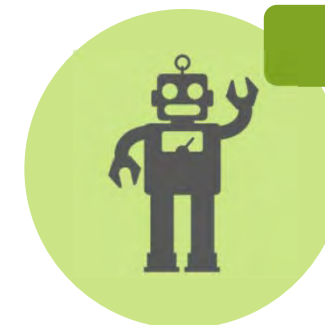
個人資産管理



クラウドファンディング



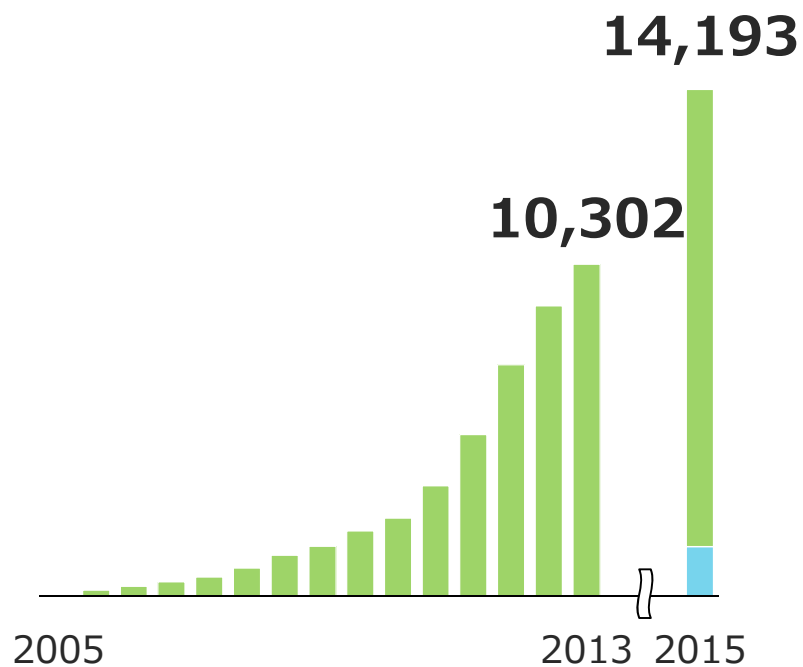
運用自動化



■ 我々の注力領域 | エンタープライズサービス

APIを通じて、外部企業と共に新たなエコシステム創出を目指す。

APIを通して公開されている機能数の推移



出典：ProgrammableWeb



API公開



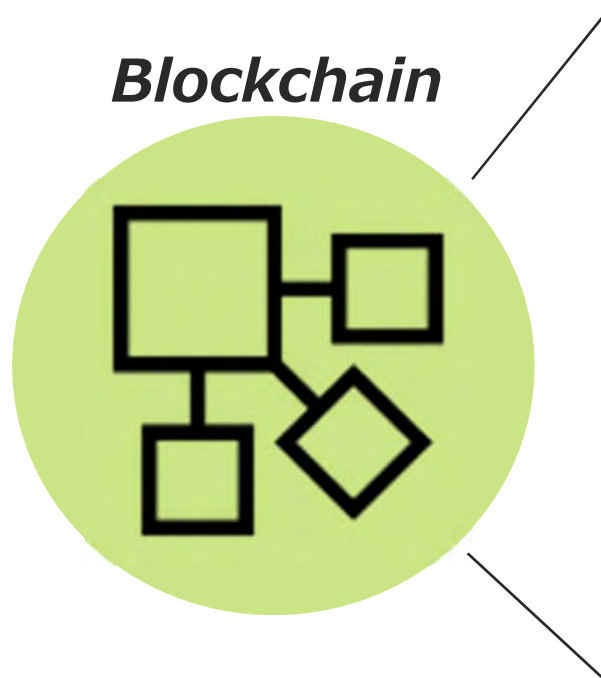
外部企業との新サービス



IoT活用

■ 我々の注力領域 | 次世代金融インフラ

ブロックチェーンの活用方法については、海外動向も踏まえながら、実証を継続。



様々な「価値」の記録元帳

例えば・・

- 送金
 - 資産管理
 - 契約管理
- 等

■ イノベーションへの取組みの例（1/3）

発表時期	概要
<p>① 2015/6</p>	<p>GMOペイメントゲートウェイとの決済代行に関する業務提携</p> <ul style="list-style-type: none"> ● SMFGグループの有する顧客基盤とGMOペイメントゲートウェイが有する決済代行サービスにおける先進性と優位性を相互に活用 ● 決済代行サービスを提供する合併会社を設立。サービス開始 <p>→ IT関連企業とのアライアンス</p>
<p>② 2015/8</p>	<p>米国・Plug and Playとのパートナーシップ契約の締結</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Plug and Playが主催するベンチャー企業支援プログラムを通して、同プログラムに参加する有望なベンチャー企業と新技術に関する情報連携やネットワークを構築 ● サンフランシスコ・ベイエリアに当部担当職員を派遣 ● その他にも、シリコンバレーのベンチャーキャピタルファンドと協働中 <p>→ 米国西海岸のベンチャー企業へのアクセス</p>
<p>③ 2016/2</p>	<p>「未来2016」の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 全ての産業を対象としたビジネスプランコンテストを開催中。起業家をトレーニングし、あらゆる企業・投資家等をつなぎあわせ、イノベーションをサポート <p>→ 有望企業の発掘を通じたオープンイノベーションの推進</p>

■ イノベーションへの取組みの例（2/3）

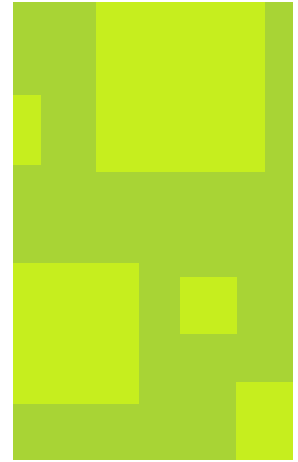
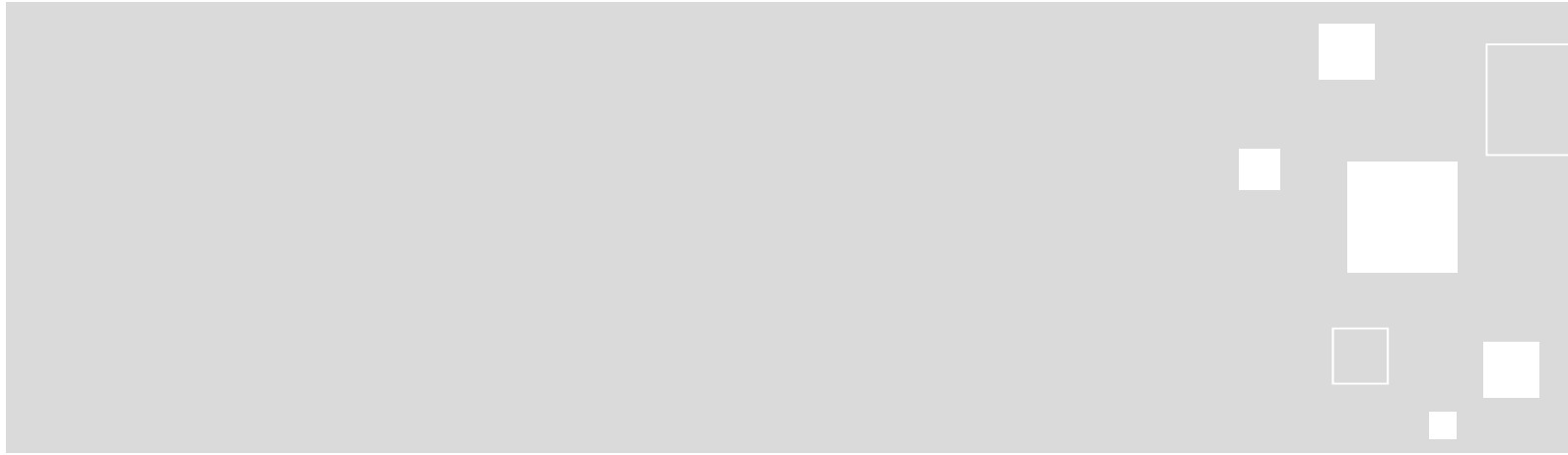
発表時期	概要
<p>④ 2015/11</p>	<p>国際的なブロックチェーン・コンソーシアムに参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 米国を拠点とする国際的なブロックチェーン・コンソーシアムに参加 → 新しい技術の国際的標準化への取組への参画
<p>⑤ 2015/12 2016/5</p>	<p>国立情報学研究所、近畿大学とのブロックチェーン技術の共同研究 ハウ・インターナショナル社との協働</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ブロックチェーン技術の金融ビジネスへの活用に関する共同研究を開始 ● 確かな学術的知見を基にしたブロックチェーン技術に関するノウハウの蓄積を推進 → 産学連携による新たなIT基盤技術の活用検討
<p>⑥ 2015/12</p>	<p>東京工業大学との産学連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 梅室教授と共に、デザイン思考を取り入れたアクティブラーニング形式の講義を提供 ● SMFG内のデザイン思考を通じた新規アイデア創出の体制作りをサポート → 産学連携による、最新のデザイン思考のマインド・手法を定着

■ イノベーションへの取組みの例（3/3）

発表時期

概要

<p>⑦ 2014/11</p>	<p>IBM Watsonの技術（人工知能）のコールセンター業務への活用</p> <ul style="list-style-type: none">● コールセンターにおいて自然言語による質問を受け付け、内容を分析・解釈し、回答候補を表示● 処理を行うごとに知識を蓄積・学習することにより、状況判断やお客さまへの応答を継続的に改善 <p>→ コールセンターオペレーターの品質向上</p>
<p>⑧ 2016/1</p>	<p>脳科学技術の金融分野への応用検証</p> <ul style="list-style-type: none">● 脳科学とは、生物の認知や行動に関する脳のメカニズムを研究する学際的な研究分野● 同分野に知見のあるN T TデータおよびN T Tデータ経営研究所と協働● お客さまの潜在ニーズを把握し、お客さま毎に最適な商品・サービスを提供 <p>→ 最新の学術的研究に基づいた金融サービスの開発</p>



LEAD THE VALUE

本資料は、貴社とのディスカッションを目的として作成されたものです。本資料は、将来の予測等に関する情報を含む場合がありますが、これらの情報はあくまで当部の予測によるものであり、情報の確実性あるいは完結性を保証するものではありません。

本資料には、当社グループの財政状態及び経営成績に関する当社グループ及びグループ各社経営陣の見解、判断または現在の予想に基づく、「将来の業績に関する記述」が含まれております。多くの場合、この記述には、「予想」、「予測」、「期待」、「意図」、「計画」、「可能性」やこれらの類義語が含まれますが、この限りではありません。また、これらの記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクと不確実性を内包するものであり、実際の業績は、本資料に含まれるもしくは、含まれるとみなされる「将来の業績に関する記述」で示されたものと異なる可能性があります。実際の業績に影響を与えるリスクや不確実性としては、以下のようなものがあります。国内外の経済金融環境の悪化、当社グループのビジネス戦略が奏功しないリスク、合併事業・提携・出資・買収及び経営統合が奏功しないリスク、海外における業務拡大が奏功しないリスク、不良債権残高及び与信関係費用の増加、保有株式に係るリスクなどです。こうしたリスク及び不確実性に照らし、本資料公表日現在における「将来の業績に関する記述」を過度に信頼すべきではありません。当社グループは、いかなる「将来の業績に関する記述」について、更新や改訂をする義務を負いません。当社グループの財政状態及び経営成績や投資者の投資判断に重要な影響を及ぼす可能性がある事項については、本資料のほか、有価証券報告書等の本邦開示書類や、当社が米国証券取引委員会に提出したForm 20-F等の米国開示書類、当社グループが公表いたしました各種開示資料のうち、最新のものをご参照ください。

